

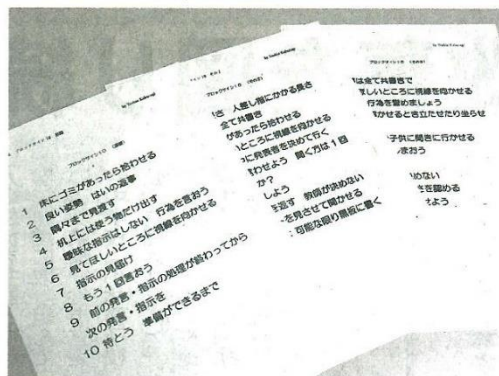
隅々まで見渡す

曖昧な指示はしない

授業で使える指導スキル整理

「ブロックサイン10」。A4判1枚の用紙を使い、授業中に発揮したい教師の指導技術10個をまとめたものだ。考案したのは、教師の資質・能力の向上につながる活動に取り組み、元公立小学校校長・NPO法人授業高度化支援センター代表(元埼玉県公立小学校校長)。特定の教科等に限定せず、幅広く活用できる指導スキルが多い。教師が学ぶことで子どもたちの学びの充実にもつながる。「ブロックサイン10」を意識して授業を行うことにより、中堅・ベテランも初心に戻り、自身にとって必要なスキルを磨くことができるという。

元公立小学校校長 楠木良夫さん



1枚の用紙(A4)にまとめられている「ブロックサイン10」

「隅々まで見渡す」「机上には使う物だけ出す」「曖昧な指示はしない」行為を言おう。これらは教師が押さえるべき基本的な指導スキルの一部だ。楠木氏のまとめた「ブロックサイン10」の中に示されている。

従来は先輩教員から教わってきたものばかり。その中には、学級経営の充実につながる子どもの褒め方や叱り方なども含まれている。昨今、業務の多忙化などにより、こうした授業中に用いる指導スキルが十分

A4判1枚につき10項目

に継承されず、身に付けられなかった教師も少なくないという。特に、1年目の新採教員であれば、なおよさ

「学生時代に教育実習で学んでいれば、若手教師の悩みや苦労も減っていたはず」と語る楠木氏。この「ブロックサイン10」は、強制的に取り組むようなものではない。クラスの実態などを踏まえ、教師自身に必要な感があることができれば、発揮することができるためだ。教師の二つの言動や行動に対し、子どもたちにもその意味や価値の「気づき」を促すことに留意を払う必要性もある。

「ブロックサイン10」は、楠木氏が自らの著書「読解力を高め自信をつける先行学習」決め手はあなたの指導技術(ひつじ書房)に収録されている「二分かる」を支える39の授業スキルがベースになっている。現在はバージョン1.4

振り返りの材料に意外な気づきも



実際の授業をベースに指導スキルを発揮できる場面検討も行っている

までの4種類がある。難易度はバージョンにより異なる。その数字が大きくなるにつれて上昇。

今後は新たに発見した指導スキルを加え、バージョン5までの作成を見据えている。

る中野教諭。当初は授業中、指導スキルを意識して丁寧に取り組む。そうすることで、友達のを聞く子どもたちの姿勢も育っているという。

いるような状態だった。

「習つよりも慣れる」

まずは「ブロックサイン10」の中から自分ができていないところを見直した中野教諭。それを意識し、実践したことで「振り返りの材料にもなった」と話す。

教師の一つ一つの行動に意味がある。楠木氏の助言もあり、それを意識することと児童理解が深まり、授業で新たに組みたいアイデアも増えたという。

一方、「ブロックサイン10」を初めて見たときに驚きを隠せなかったと語り、板橋教諭。バージョン1に「指示の見掛け」という指導スキルがある。例えば、教師が黒板の見てほしいところを指示した際、「1回」の指示だけでは見えない。子どもが意外といることが分かった」と話す。教師が問い合わせ「Kaibun」(楠木)

現在、楠木氏は東京都板橋区立中根橋小学校(東京都板橋区、児童308人)で6年理科の時間講師を務めている。また、同校が取り組む校内研修の指導・助言者でもある。「ブロックサイン10」のことを知り、自主的に取り組みたいと申し出た教師がいた。同校の中野亜希子教諭(6年担任、教員経験2年目)と板橋秀美教諭(5年担任、教員経験8年目)の二人だ。「ブロックサイン10」のよう

指導スキルは、両教諭とも学生時代を含めて学ぶ機会があまりなかったという。毎回の授業に臨む際、「新しい年目(昨年度)は緊張の連続だった」と打ち明け

余裕を持ち、一つ一つの指